

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

2024年度 2025.03.19

法人名	社会福祉法人吉田福祉会	代表者	理事長 前山 千恵子	法人・事業所の 特徴	吉田北地区の公園内に位置しており、保育所や公民館に隣接しています。日中は園児たちの元気な声が聞こえ、時々散歩の途中や帰宅前に顔を見せに寄ってくれたりします。また公民館の行事には積極的に参加し、地域とのふれあいを大切にしています
事業所名	小規模多機能センター 一さわらび	管理者	管理者 齋藤 義文		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	2人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	改善計画も含め介護サービス提供においてやるべきことを明確化しスタッフ全員が共有できるよう取り組む。	チェック表を活用する等、不適切なケアに当たらないか日頃から意識し、業務に取り組んだ。一部記録の電子化を進め、情報共有を図った。	特になし	介護サービスの質の向上を図るため、不適切なケアについて日頃から職員間で意見交換しながら、改善点があれば全職員で共有し、速やかに取り組み対応する。
B. 事業所のしつらえ・環境	ご利用者目線で居心地の良い環境についてスタッフ間で意見交換し、室内レイアウト、装飾、清掃等改善に取り組む。	テーブルの位置を変える等し自立歩行の障害にならないよう動線上の整理を行った。ご利用者と共に制作した作品を飾り話題づくりにした。	特になし	環境係だけに任せることなく、職員全員がご利用者目線で居心地の良い環境づくりについて意見、アイデアを出すべく、スタッフ会議にて定期的に意見交換する
C. 事業所と地域のかかわり	事業所内の活動が地域の方に知っていただける内容を『さわらび通信』に掲載し発信する。法人ホームページへの掲載は継続し、今後地域へは回覧板を活用する等方策を練る。	『さわらび通信』は2か月1回定期的に発行できた。地区の文化祭においても配布した。回覧板での回覧は行えなかった。	特になし	昨年初開催した北地区勉強会を継続して行うべく、内容、集客方法等の検討を図り、定期開催につなげる
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご利用者の状況に応じて、その地域の民生委員や近隣住民とも連携を図っていく	連携を必要とする事案は生じなかった。地域包括支援センターからの情報提供のみであった。	地域の勉強会の定期開催をお願いしたい	地域の困りごとや意見の聴取及び協力を求める場として地区勉強会を定期開催する
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議において、事業所のサービス提供事例や困難事例等について共有し、意見を頂くようにするとともに、地域での困りごと等があれば検討を図る。	定期開催できた。都度事例提供し、支援状況について共有できた。開催時は情報提供が主となっており、地域での困りごと等の把握検討にはいたらなかった。	特になし	運営推進会議において、事業所のサービス提供事例や困難事例等について共有し、意見を頂くようにするとともに、地域での困りごと等があれば検討を図る。
F. 事業所の防災・災害対策	災害備蓄品（食品・物品・設備）の見直しと補充を図る。	災害備蓄品の点検見直しを行い、新たに簡易トイレを補充した。	特になし	災害備蓄品（食品・物品・設備）の点検と見直しを図る。災害に備えた職員訓練を行う。